

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2022/10/03号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

ゴールド下落に終止符？

SPDR Gold Shares円建価格



ゴールドとドルインデックス



ドル一人勝ちが続き、ゴールドは1600ドルトライもあり得るか、と先週は書きましたが、マーケットはより複雑な動きがあり、ここまで続いてきた金利上げ、ドル高一辺倒から少し雰囲気が変わってきました。新たな英トラス政権による物価高騰への対策として所得税減税が発表された直後債券が暴落し、対ドルで歴史的安値を記録（これによって債券建てのゴールド価格も過去最高を記録）、これが株価のさらなる下げにつながり、債券は逆に買い戻され、2.5年ぶりの安値レベルに沈んでいたゴールドも大きく買戻しが入り50ドルをの上昇となりました。債券は週末に向けては、BOEによる制限のない国債買取という介入政策により急落部分は戻し、マーケットはとりあえず落ち着きを取り戻しましたが、ゴールドのこれまで続いてきた下げ一辺倒の動きが久しぶりに中断されました。英国新政権の失政に加えて、ロシアプーチン大統領による核兵器使用をほのめかす威嚇的な発言やウクライナ四州併合の一方的な発表も地政学的リスクの増大をマーケットに再び意識させました。これもまたゴールドを押し上げる要因になっています。ドル高は、世界のほかのすべての国々、なかでも特に新興国の経済には大きなダメージを与えており、多くの国がIMFに経済援助を求めることになり、今後の世界経済の不況への不安も、これまでほかの資産と同様に売られてきていたゴールドにふたたび「安全資産」としての見方を再認識させているようです。ただ、FRBの金利上げの姿勢にはこれまでのところ変化はなく、今後もゴールドが上昇を続けるかどうかはまだわかりませんが、世界の金融市場の変調がFRBにその姿勢を変更させるきっかけとなる可能性はあり、ゴールドはとりあえずの底値は確認したと言えるのではないのでしょうか。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

【マーケット・トピック】

「ゴールドマーケットの変化」

現在のゴールドマーケットは、金生産地域の多く植民地として保有していた英国が、そのゴールドをロンドンに輸入したことから、ロンドンを中心に過去100年の時をかけて発展してきたものである。それが今ロシアのウクライナ侵攻を直接のきっかけとして大きく変わりつつある。今年6月、ロシアに対する経済制裁の一部として米国、英国、カナダそして日本はロシアのゴールドの輸入を禁止し、EUと伝統的に中立的なゴールドの中継基地であるスイスも翌7月にその例に従い、事実上西側諸国にはロシアはゴールドを売却できない状態となった。ロシアはLBMA(London Bullion Market Association)に代わる独自の貴金属取引所The Moscow World Standard (MWS)を設立することを提案しており、旧ソ連の国々であるアルメニア、キルギスタン、ベラルーシそしてカザフスタンというユーラシア経済連合(The Eurasian Economic Union)の金融機関や中央銀行がその主なメンバーとなり、いずれかの国の通貨を貴金属価格と紐付け、全く新しい通貨を創設し、それを国家間の貿易決済に利用するという目標も掲げている。これら旧ソ連の国々以外にもベネズエラ、中国、インド、ペルーなどにも支持を呼び掛けており、そのインドは7月、独自の取引所をモディ首相の肝いりで始めている。India International Bullion Exchange (IIBX) というこの取引所はインドがゴールドの二大需要国のひとつであるだけに、世界に対する影響力も今後それなりに発揮していくことが予想される。二大生産国である中国とロシア、そして二大需要国である中国とインド、それぞれ独自のマーケットの設立に動いているのだ。中国はすでに上海黄金交易所という取引所を2002年に開設しており、その世界のマーケットに対する影響力はすでに無視ができないものとなっている。ロシアとインドの動きは、これまで当然としてきた「常識」が、ゴールドの世界でもはや世界共通の理ではなくなるということだ。そしてこの分裂した世界で、唯一共通の価値としてのゴールドはこれまで以上に存在感を増すことになるだろう。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

